

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0870600319		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	下館ケアセンターそよ風		
所在地 (電話番号)	茨城県筑西市甲44 (電話)0296-21-0861		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年4月27日	評価確定日	平成19年11月14日

【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 12.7人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1400円		

(4)利用者の概要(4月1日現在)

	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	10 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	明野中央病院	中山歯科
---------	--------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は臨床試験の機関であり、介護の必要性からケアセンターを立ち上げ全国に117ヶ所、県内に9ヶ所の系列センターがあり、職員間の交流を図り資質の向上に努めている。地域をはじめ、市内のグループホームとも積極的に交流を呼びかけ地域密着を目指している。入居者に対し、職員の資質の向上を目指しながら、家族のようなあたたかさを提供しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では夜間の防災訓練、ストレスについて指摘があり、会議において話し合い、改善した。階段の扉に関しての指摘はどうしても危険防止のため施錠の必要があるため、何かいい方法がないか職員全員で思案中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己、外部評価の意義を理解し、管理者と職員で共有し、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	介護保険室課長、民生委員、自治会長、家族のメンバーで会議が開催されている。未だ会が浅いため、会議内容は状況報告、問題点についての開催ではあるが、評価についての報告、改善に向けての取り組みをホームとして述べている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への情報提供は毎月行われている。家族の意見、苦情、不安等は面会時にさいている。職員の目の届かないところに意見箱を設置し、家族に対する配慮がされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は密で、自治会の加入、地域行事の参加、また、ホーム主催の納涼祭を楽しみにし、参加者が60名近くになる。民生委員、自治会長の協力もあり、地域に密着しつつあるホームである。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、職員が家族のような関係の下、入居者の意思と個性を尊重した下館独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は朝礼時に理念を唱和して共有をはかり、日々のケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、積極的に地域開催行事に参加またホーム主催の納涼祭、文化祭を家族、地域の方々を合わせ60名の参加で開催している。民生委員が協力的で夜間の助けを受けることもある。		ホーム主催の行事に対し地域の人たちが楽しみにしている様子が話の中で窺えた。ますます地域との関係を深く築いてもらいたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し職員会議で自己評価を実施し、管理者と職員間で共有している。外部評価結果に対しても、ケア会議等で話し合い、改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険室課長、民生委員、自治会長、家族の参加のもと、運営推進会議を開催している。現在はまだ手探りの状態ではあるが、そのたびにきちんとテーマを決めての会議であることが記録簿から窺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小学生の夏休み体験学習の場として提供したり、市社協のボランティアの受け入れを行っている。教育委員会に中学生の体験学習の受け入れの要請するなど積極的に行政に働きかけている。		権利擁護に関する勉強会の依頼を市に行い、連携を図りたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の月間報告書(生活状況、健康、服薬、特記事項、連絡事項等)および金銭出納帳を送付きちんと報告している。		スナップ写真の1枚でも同封すると、家族に喜ばれるのではないのでしょうか？
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情窓口をホーム、第三者の窓口を明示している。玄関に職員家族の手製のあたたかみのある意見箱の設置をしている。過去1度だけ問題提起があったが、即座に対応し、家族の理解を得ている。		意見の言い出しにくい家族に対しての配慮とし、家族会の活用を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動に関し家族に報告している。入居者1人に対し、2人の職員が担当しているので、とくにダメージは出ていないが、引継ぎを徹底している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資質の向上にセンター全体研修会議を開催している。外部研修については職員に合った研修に参加し、カンファレンス会議にて報告している。新人職員については指導者をつけて日々のケアの中からトレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協議会入会に向けて取り組んでいるが、大きな組織の中のGHであるため、なかなかむずかしい。近隣のホームに連絡を取りイベントの参加を呼びかけて、交流に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談があったら家族、入居者と面談して話を聞き、デイサービスの利用、GHの1週間の体験入所で雰囲気になじめるように工夫しているが体験入所は(不測の事態も想定されるので)慎重に取り組む必要がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として昔の習慣、慣わし、食生活等教えてもらったり、学ぶことが沢山あり、お互いに支えあう関係が自然に出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念の一つである入居者の個人の思いを尊重し、意向に沿えるように努めている。意思疎通の困難な入居者には出来るだけ話しかけをし、その時の表情から本人の気持ちをさぐり、把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が作成したアセスメントをもとに職員全員でケア会議にて入居者、家族の要望、職員の意見、気づきを反映した介護計画を作成している。家族に対しては介護計画書を郵送し、承諾のサインをしてもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期3ヶ月、長期1年の期間に応じたモニタリング、経過記録、目標結果がきちんと記載され、個人の日誌もケアプランにそった一つ一つの支援内容が記載されている。		ケアプランに沿った日々の支援内容が見事に記録されていて、職員の意欲を強く感じる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を生かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者に対し24時間健康管理のほか状況に応じた通院、外出の支援をしている。現在ショートステイの受け入れ申請予定。		地域に密着したGHではあるが、多機能性を活かしたショートステイの早期申請、実施に期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望によりホームドクターあるいは、事業所協力医療機関に受診しているが、それぞれに適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在体制が整わないが、ターミナル期の入居者を受け入れ、酸素吸入ぎりぎりまでの6ヶ月間見ることが出来たことは、職員にとっても不安ではあったが、充実感をもてたことは良い。		今後の変化、家族の要望に備えて、段階的合意の必要性が出てくると思われるので、マニュアル、チーム体制の準備に努めて欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議において、言葉や対応についての話し合いをし、確認している。入居者に対し名前で呼び、個々にあった言葉掛けをしている。家族に入居者の状況等を話すときは、事務所にて行い個人情報保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切に、希望に沿って柔軟に支援出来るように心がけている。		一日の業務の流れと入居者のペースをうまく工夫しているが、さらなる努力を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は本社で決めているが、食材の買い物、調理、米とぎ、盛り付け、配膳、下膳、食器拭き、食卓拭きなど、入居者の力を活かしながら、職員と一緒に準備や食事、片づけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴、拒否の入居者に対しては、無理強いしないで、時間をおいて声かけしている。異性の職員の介護を嫌がる入居者に対しては特に気をつけている。		入浴時間は15時半からとなっているが、希望に応じた時間帯の入浴は可能であるので、入居者の要望を受け入れる支援を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の音楽療法の梅干体操、裁縫、草花の手入れ、日用品の買い物、併設のデイサービスのボランティア見学、習字などで個人の役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。意思疎通の困難な入居者に対しては表情から気持ちを把握している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	美術館、公園、神社に散歩に出かけて、気分転換、ストレス解消を支援している。意思疎通の困難な入居者に対しては食材の買い出し時に付き合ってもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族了解のもと、ハード面でどうしても危険防止の為、階段まえの扉と玄関は施錠している。		階段前の扉が木製のため威圧感を感じるのではないのでしょうか？壁にあわせた白色のクロスを貼るとか、塗装するとかすると雰囲気が変わってくるのではないのでしょうか？入居者の外出傾向が見られるときの前向きな支援を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜間を想定した避難訓練の実施。地域の民生委員、自治会長から連絡網に名前を記述しても良いといわれている。	○	災害はいつ起こるかかわからないので、順次 防災備品を整備することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の栄養士がたてた献立のもと、食事、水の摂取量、カロリーは把握している。塩分、水分制限の入居者について、医師と連携し、指示を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のリビングには入居者作成の大きな季節感あふれたカレンダー、生活感ある畳のコーナー、ソファを設置し居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、椅子、家族の写真、手鏡、時計など家族の協力のもと馴染みの物品が持ち込まれ、入居者にとって居心地よく過ごせる居室になっている。		